

# アジア経済トレンド

2012年11月

## 目次

韓国	1
台湾	2
ASEAN・インド	3
中国	4



調査部 マクロ経済研究センター

<http://www.jri.co.jp/report/medium/publication/asiatrend>

本資料は2012年11月26日時点で利用可能な政府統計等をもとに作成

本資料に関するご照会先

調査部

向山 英彦 (mukoyama.hidehiko@jri.co.jp)

佐野 淳也 (sano.junya@jri.co.jp)

# 1. 韓国経済

<7~9月期の成長率が前期比0.2%へ低下>

7~9月期の成長率(速報値)は前期比0.2%  
 ・7~9月期の実質GDP成長率(前期比)は、1~3月期の0.9%、4~6月期の0.3%を下回る0.2%に、輸出が2.5%増となった一方、設備投資が前期に続くマイナス(-4.3%)となったほか、民間消費が0.6%増と伸び悩んだ。  
 前年同期比は1.6%で、1~3月期の2.8%、4~6月期の2.3%を大きく下回った。  
 ・2011年以降の景気減速は輸出と設備投資の減速によるところが大。2010年前年比14.7%増、2011年同9.5%を記録した輸出の伸び率は7~9月に前年同期比2.6%へ低下。  
 輸出の失速は予想された展開であり、むしろ注意したいのは消費の動き。前年同期比で見ると、民間消費の伸びは実質GDP成長率を下回り続けている。これには、実質所得の伸び悩み、債務返済負担の増大、債務抑制策、住宅価格の下落、消費マインドの悪化(消費者心理指数が8月以降基準値の100を割る)などが影響。

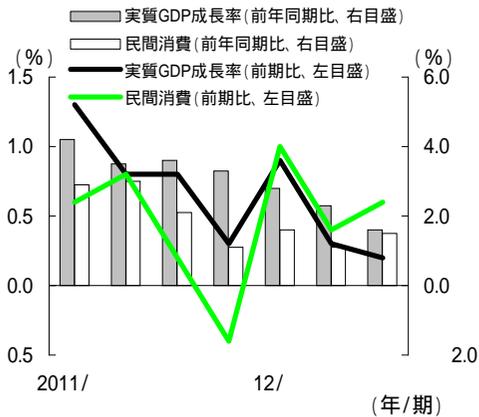
## 脱しつつある景気の最悪期

・輸出(通関ベース)が10月、前年同月比1.1%増と4カ月ぶりの前年比プラスに。中国向けが回復傾向。  
 ・利下げと減税効果により、消費にもやや改善の兆し。自動車販売台数(輸入車を含む)は10月、前年同月比4.9%増。ただし、家計債務問題の影響に加えて、一部の企業で始まった雇用調整が消費を下押しする可能性があり、当分消費の増勢は弱いと予想。  
 銀行の不良債権比率は低い、ノンバンクの不良債権比率が高いことに要注意。

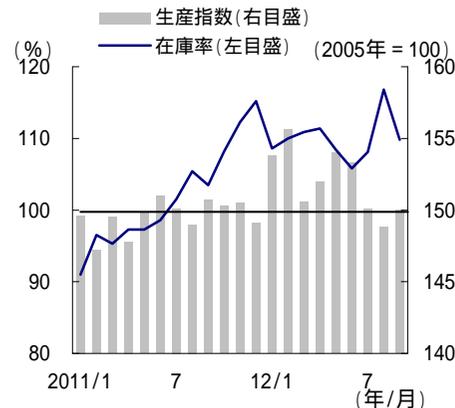
## 2012年は2.5%、13年は3.0%成長

・景気の減速を受けて、金融緩和(7月、10月に利下げ)、不動産融資規制の一部緩和(ソウル特別市で50%と規定されていた負債所得(元利返済額/年収)比率を条件つき緩和)、減税などが実施。減税策の柱は不動産取引税と自動車・大型家電に対する特別消費税率の引き下げ(年末まで1.5%ポイントの引き下げ)。来年は公共投資が増額。  
 ・内外需の減速により、2012年の実質GDP成長率は2.5%になるものと予想。景気は徐々に回復に向かうものの、内外需の増勢が弱く、2013年も3.0%にとどまる見込み。  
 ・12月19日に大統領選挙。保守、革新系候補者とも経済の民主化をアピール。経済界では行き過ぎた経済民主化を警戒しており、一時的に投資マインドが冷え込む恐れあり。

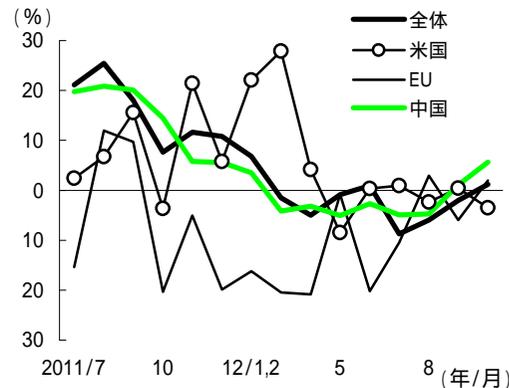
(図表1-1)実質GDP成長率(前期比)



(図表1-2)製造業生産・在庫率



(図表1-3)輸出(前年同月比)

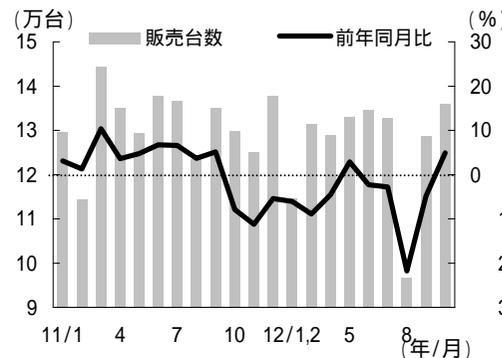


(注)旧正月のずれの影響を除くため、12年1,2月は合計

(図表1-4)ウォンの対ドル・円レート

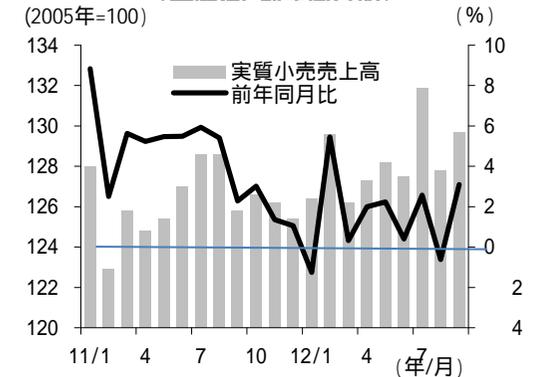


(図表1-5)国内自動車販売台数(輸入車を含む)

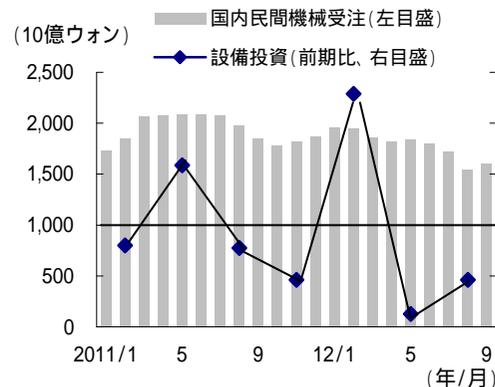


(注)旧正月のずれの影響を除くため12年1,2月は合計

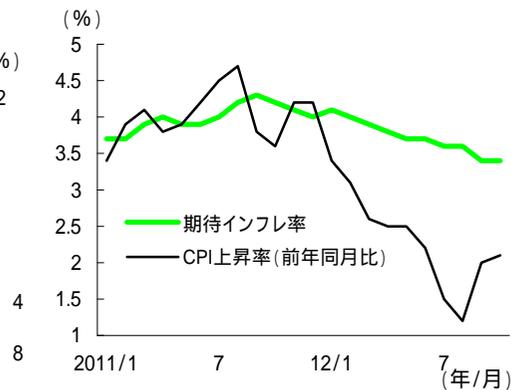
(図表1-6)実質小売売上高(季節調整済み、前期同月比)



(図表1-7)船舶を除く民間機械受注額(後方3カ月移動平均)



(図表1-8)CPI上昇率(前期同月比)



## 2. 台湾経済

### 景気は底打ち

・7～9月期の実質GDP成長率(前年同期比、以下同じ)は4～6月期の 0.12%(改定)を上回る0.98%(改定)となった。輸出が1.77%増となった一方、総固定資本形成は0.54%となった。また民間消費も0.89%増にとどまった。

前期比成長率(年率換算)は4～6月期の3.91%、7～9月期3.74%。

### 生産と輸出受注額で前年比プラスが続く

・輸出(通関ベース)は9月に前年同月比(以下同じ)10.4%増(前年同月水準が低い効果も)となったが、10月は 1.9%に。欧州向け 11.0%、米国向け 9.5%となったほか、全体の約4割を占める中国・香港向けも0.3%増(中国大陸向けは0.0%増)にとどまった。ASEAN6向けも1桁の伸びに低下。品目別では情報通信機器が大幅減。

・製造業生産指数は9月3.0%増、10月4.5%増。ただし、足元では電子部品の生産(スマートフォン関連が好調)水準はほぼ横ばいで推移。

・輸出受注額が9月前年同月比1.9%増と、10月3.2%増と、2カ月連続で前年比プラスに。米国向け9.3%増、中国・香港向けが1.2%増、EU向け1.1%増。品目別では精密機器類10.1%増、電子機器が3.5%増、情報通信機器 0.3%。

・輸出に明るさがみられるのと対照的に、民間消費は減速傾向が続く。小売売上指数(季調済)の伸び率は昨年秋口以降低下傾向にあり、自動車販売は7月以降前年割れ。

消費の減速要因には、輸出の減速を受けて、製造業における賃金(残業代を含む)の伸びが低下したこと、失業率が2012年入り後緩やかに上昇していることなど。失業率(季調済)は2012年2月の4.15%をボトムに10月は4.30%へ上昇。

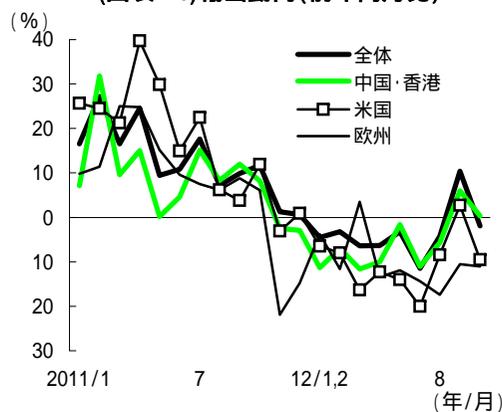
### 今後の経済見通し

・中国の景気回復と世界的なスマートフォン需要の拡大を背景に、輸出の持ち直しは今後も続くであろうが、ペースは緩やかなもの。消費の回復にも時間がかかる見込み。

・2012年の実質GDP成長率は1.2%、13年は3.2%の成長になるものと予想。

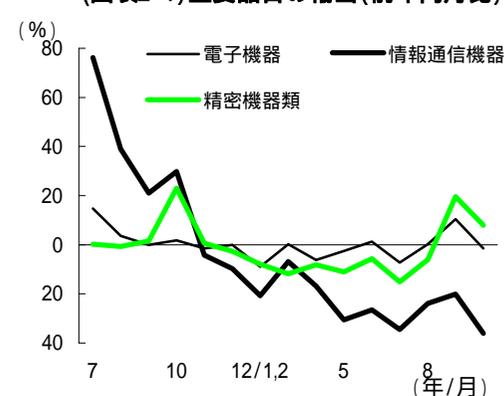
## < 景気底打ち感が広がる >

(図表2-3)輸出動向(前年同月比)



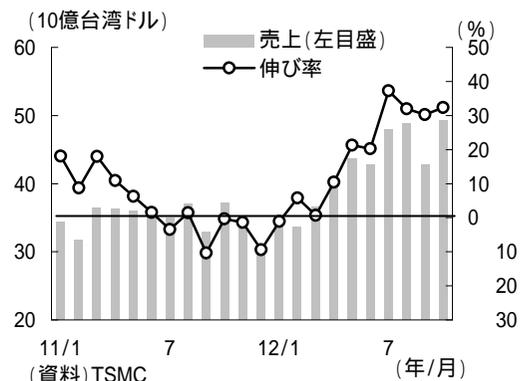
(注)2012年1、2月は合計額の前年同期比

(図表2-4)主要品目の輸出(前年同月比)



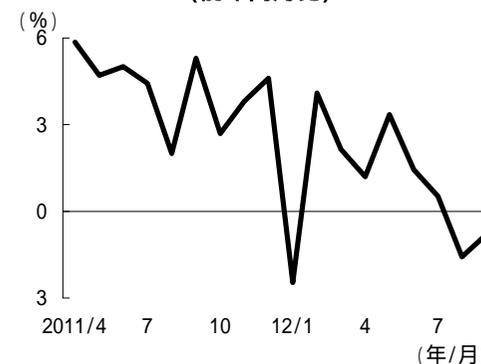
(注)液晶パネルは精密機器などに含まれる

(図表2-5)TSMCの売上

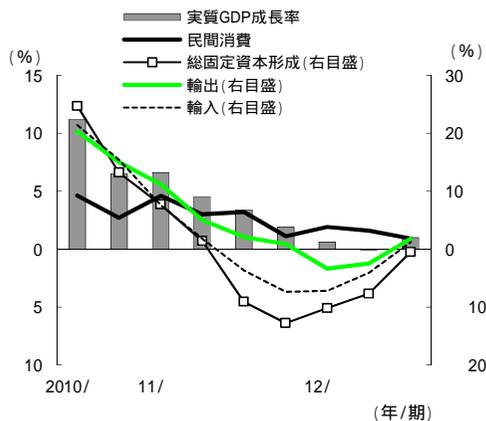


(資料) TSMC

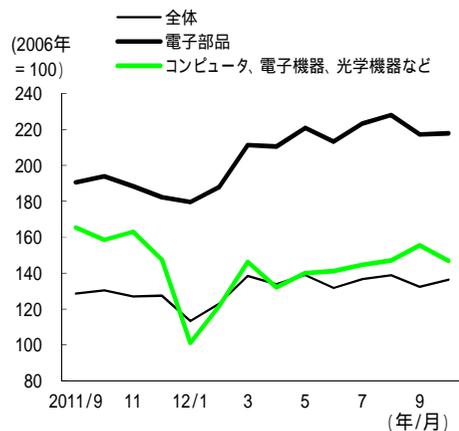
(図表2-6)季調済小売売上指数(前年同月比)



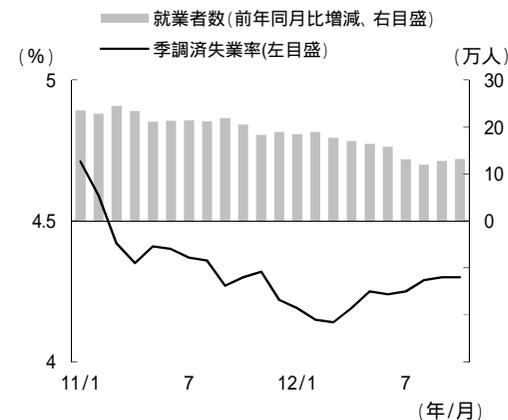
(図表2-1)実質GDP成長率(前年同期比)



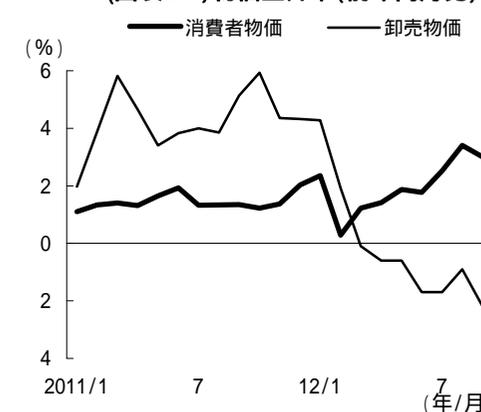
(図表2-2)製造業生産



(図表2-7)雇用関連指標



(図表2-8)物価上昇率(前年同月比)



### 3. ASEAN・インド経済

<ASEAN諸国では内需が成長を支える、インドネシアの7~9月期は6.2%成長>

#### ASEAN諸国

・ASEAN諸国では輸出の落ち込みを内需がカバーして、安定した成長が続く。

・インドネシアでは7~9月期に輸出が 2.8%(前年同期比、以下同じ)となったが、民間消費5.7%増、総固定資本形成 10.0%増と内需が成長を支えて、実質GDP成長率は6.2%。

足元では、自動車販売台数が9月、10月と前年同月比20%を超える伸びが続く。  
 ・マレーシアでも輸出が 3.0%(前年同期比、以下同じ)となったが、民間消費が8.5%増、総固定資本形成が22.7%増と著しく伸びたため、7~9月期の実質GDP成長率は5.2%に。  
 ・タイの7~9月期の実質GDP成長率は3.0%。民間消費6.0%増、総固定資本形成15.5%増となったが、輸出が 2.8%にとどまったほか、在庫投資の大幅減少が響いた。  
 自動車販売台数は8月63.9%増(前年同月比、以下同じ)、9月52.7%増、10月233.2%増(前年同月は洪水の影響で大幅減)と好調続く。生産の復旧と減税策が寄与。  
 足元では輸出が減速し、製造業生産の伸びが低下。内需を刺激するため、農民向け所得保障策を実施しているほか、10月に利下げ実施。

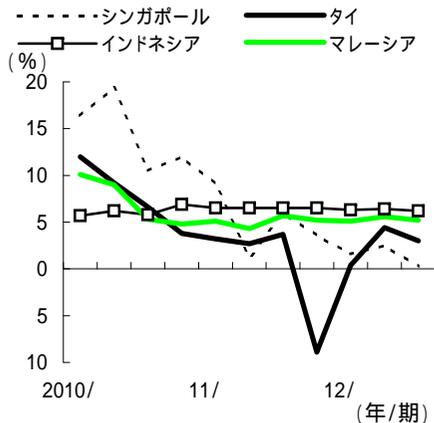
・ベトナムでは7~9月期の実質GDP成長率が前年同期比5.4%と前期を上回った。足元では、内外需とも比較的底堅く推移。半面、CPI上昇率(前年同月比)が公共料金の値上げなどにより9月6.5%、10月7.0%へ再加速。7月に今年5回目の利下げ実施したが、足元のインフレ加速により、8月以降は政策金利の据え置きが続く。

9月20日より、一定の条件を満たす中小企業に対して法人税率の引き下げを実施。

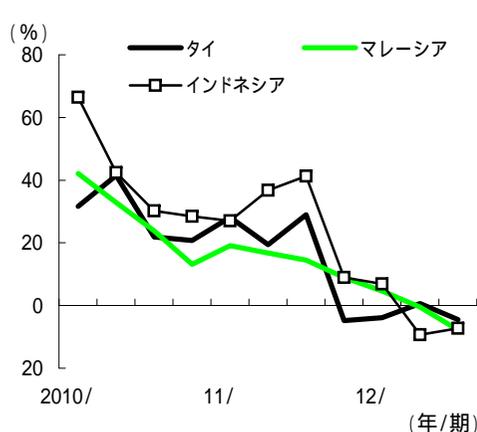
#### インド

・インドでは4~6月期の実質GDP成長率が5.5%。製造業は0.2%増。足元では、10月に乗用車販売が高い伸びに(前年水準が低い効果と祭典の影響も)なったものの、総じて内外ともに低迷。11月、今年4回目の預金準備率引き下げを実施。卸売物価上昇率は8月の8.01%(改定)から9月に7.81%、10月7.45%へ下落しているものの、依然高水準。2012年度の実質GDP成長率は5.7%、13年度は6.5%になるものと予想。

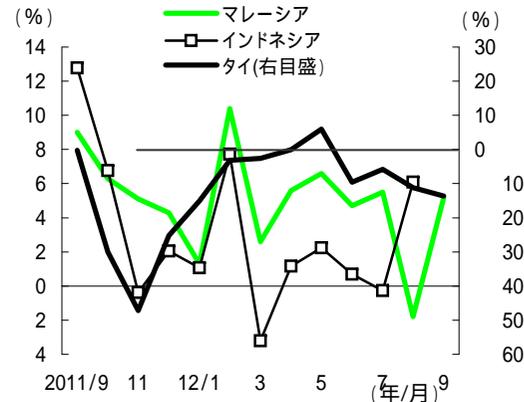
(図表3-1)実質GDP成長率(前年同期比)



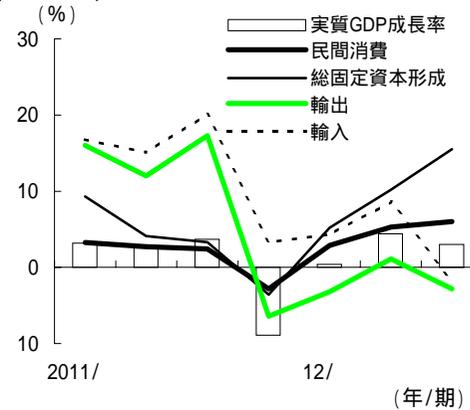
(図表3-2)輸出(前年同期比)



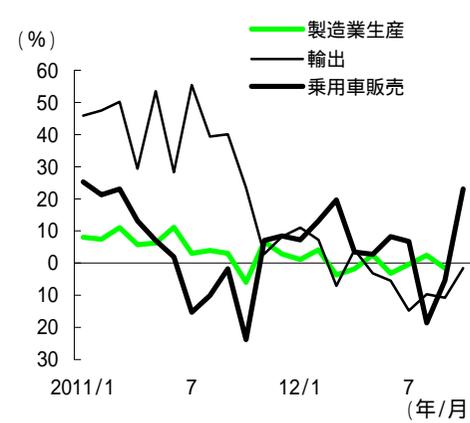
(図表3-3)製造業生産指数(前年同月比)



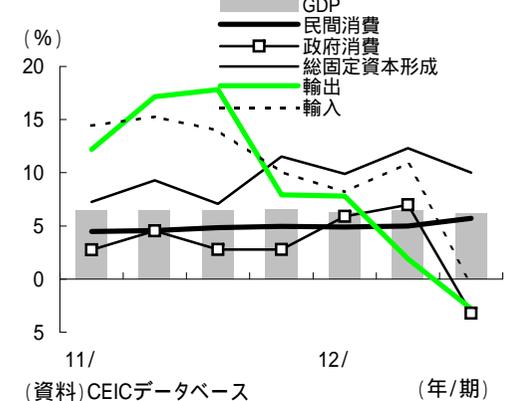
(図表3-5)タイの実質GDP成長率(前年同期比)



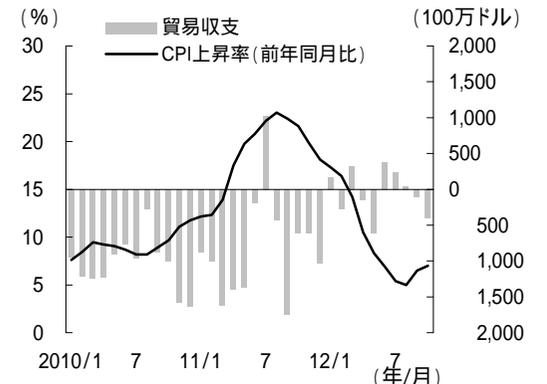
(図表3-7)インドの経済指標(前年同月比)



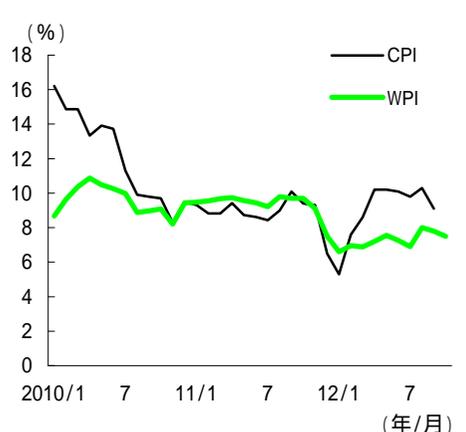
(図表3-4)インドネシアの実質GDP成長率(前年同期比)



(図表3-6)ベトナムの経済指標



(図表3-8)インドの物価上昇率(前年同月比)



## 4. 中国経済

< 景気は緩やかに持ち直し >

### 投資が底打ちし、消費も上向く

- 1～10月の固定資産投資(除く農村家計)は、前年同期比20.7%増。伸び率は1～9月より0.2%ポイント上昇し、1～8月を底に、投資は緩やかな持ち直しの動きを示す。鉄道等のインフラ整備プロジェクトの回復傾向や金利引き下げ効果の顕在化が投資全体の持ち直しをもたらした要因に。
- 大型連休や年央以降の消費刺激策などで消費者の購入意欲が高まったことから、10月の名目小売売上高は前年同月比14.5%増と、4月以降では最も高い伸び率。物価上昇率の沈静化に伴い、実質ベースの伸びでは年央以降加速基調。

### 輸出の増勢加速するも、先行きは楽観できず

- 10月の輸出は、前年同月比11.6%増。2桁台の増加率は4カ月ぶり。ASEAN向けの急拡大、EU向け輸出マイナス幅の縮小傾向などが、増勢加速の主因。
- ただし、今後の輸出動向を展望するうえで注目された中国輸出入商品交易会での輸出成約額が前回(12年春)比9.3%減の326.8億ドルであったことから、先行きは楽観できず。

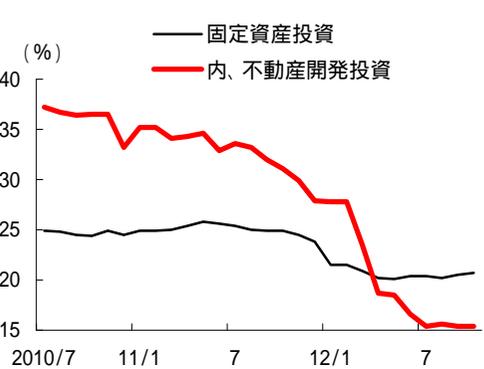
### M2や銀行融資残高の伸び率は若干低下

- 10月のM2は前年同月比14.1%増、銀行融資残高は同15.9%増。いずれも、9月に比べれば伸び率は若干低下したものの、金融面での適度な緩和基調は変わらず。
- 10月の消費者物価指数(CPI)の上昇率は、前年同月比+1.7%。金融緩和の余地は拡大しており、不動産市場の再過熱懸念を払しょくできれば、基準金利や預金準備率の小幅な再引き下げにも現実味。

### 2013年は8.2%成長と、12年を上回る見通し

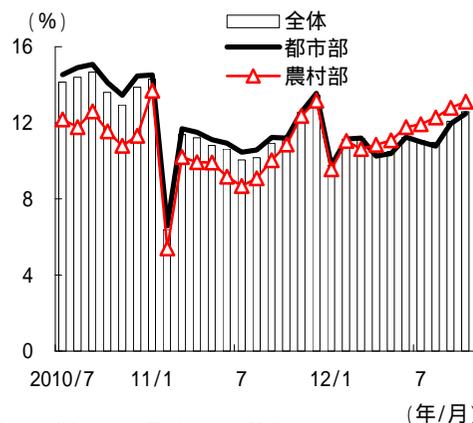
- 窓口指導や政策金利の引き下げ、公共投資の拡大など、これまでに実施した景気対策の奏功により、2012年通年の成長率は7.7%となる見込み。
- 欧州債務問題が輸出の重石となり続ける半面、インフラ整備プロジェクトの堅調な拡大、消費拡大策(喚起策やサービス産業の育成など)の押し上げ効果を期待できることから、13年は8.2%成長となる見通し。

(図表4-1) 固定資産投資(除く、農村家計)



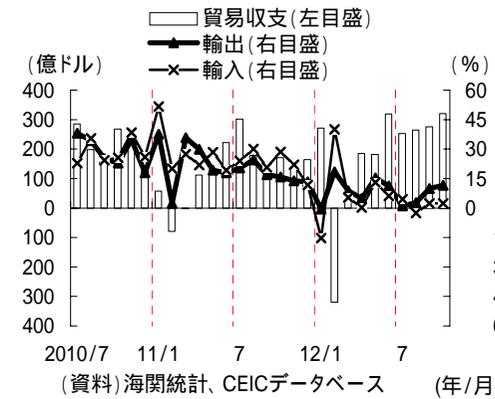
(注)1. 年初からの累計額で前年同期と比較。1月は発表されないため、1～2月の伸び率を使用。  
2. 10年末までは都市部のみ。

(図表4-2) 小売売上高(前年同月比)

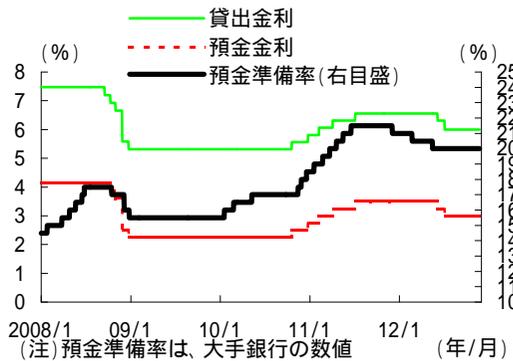


(注)1. 消費者物価指数で実質化。  
2. 12年から1月、2月は、1～2月の伸び率を使用。

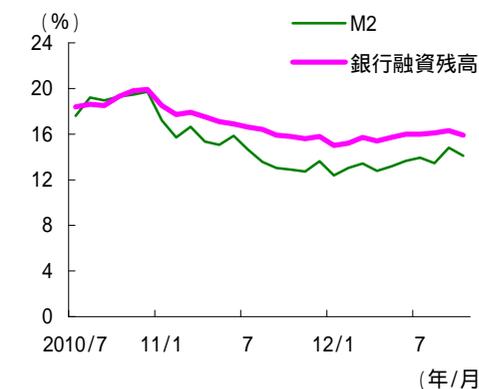
(図表4-3) 輸出入(前年同月比)、貿易収支



(図表4-5) 基準金利(1年物)、預金準備率



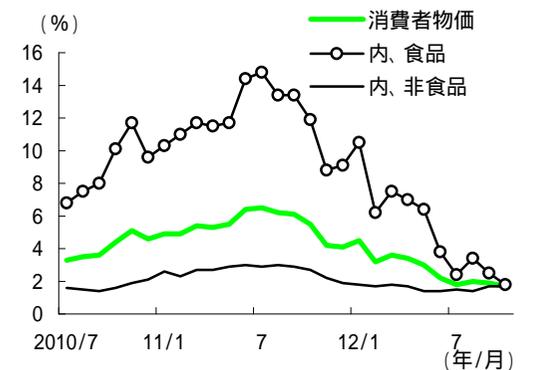
(図表4-7) M2、銀行融資残高(前年同月比)



(図表4-4) 人民元レート



(図表4-6) 物価上昇率(前年同月比)



(図表4-8) 実質GDP成長率(前年同期比)

